



目 次

1. 巻頭言	新年ご挨拶	-----支部長	吉岡慧治	P 1
	新年にあたり	-----会 長	清水英範	P 2
2. 伝 承	【上野三碑】	-----	星埜由尚	P 3-5
3. 特 集	【風雨災害への対応】	-----	三陽技術コンサルタンツ	P 6-7
4. 得意技術紹介	【釣りドコ】	-----	アジア航測	P 8
5. 研究室紹介	-----	茨城大学	国土空間情報研究室	P 9
		木更津工業高等専門学校	空間情報工学研究室	P 10
6. ニュースラウンジ	----	【地図の利用手続きを緩和します】	ほか	P 11-12
7. 本の紹介	-----	-----	【伊能図探検】	P 13
8. 支部報告	-----	第30回測量経営者研修会開催報告		P 14-16
		芝浦工業大学公開講座参加報告		P 17-19
		第20回いばらき児童生徒地図作品展協力報告		P 20
		支部長の交替		P 21
9. 編集後記	-----			P 22



新年ご挨拶



(公社) 日本測量協会

関東支部

支部長 吉岡 慧治

あけましておめでとうございます。

昨年秋に小野支部長から引継ました、吉岡慧治と申します。皆様には穏やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

私は、長らく関東支部の役員として、また副支部長として努めてまいりました。また現在本部の理事として、日測協の運営に携わっております。

関東支部におきましては、社会部会に20数年所属し、社会部会長として支部の活動に陰ながら協力してまいりました。この社会部会では、会員企業の活性化と成長を目指して研修会、パネルディスカッション、会員同士の交流など様々な活動を積極的に行ってまいりました。その中では、日測協の主旨にそぐわないのではないかとのご指摘を受けることもありましたが、部会の委員の方々の工夫と努力もあってよりよい活動が続けることが出来ました。

これからは、これらの経験を生かし、会員である測量技術者の技術レベルの向上と、会員企業及び測量界の発展のために尽くしていくことが、私のやるべきことと肝に命じ、微力ですが勤めさせていただきます。どうか宜しくお願いいたします。

新年にあたり

(公社)日本測量協会

会長 清水英範

2020年、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

会員の皆様におかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

私は昨年6月に会長に就任しました。会長として「人材育成」に力を入れていきたいということは、月刊『測量』（2019年9月号）でも会員の皆様にお伝えしているところですが、新年にあたり、あらためて私の思いを申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



私はどのような分野であれ、学協会の最大の役割は人材育成であると思っています。特に測量の分野は、明治以来の種々の経緯から、大学等に十分な教育・研究体制が整備されない状況が生まれ、それが基本的に現在まで続いています。他の分野以上に、学協会が人材育成に果たすべき役割は大きいと言えましょう。日本測量協会は公益社団法人として、その先頭に立って活動を進めていかなければなりません。

当協会はこれまでも、①講習会やセミナーの開催、②応用測量論文集の発行と研究発表会の開催、③イノベーション大会や地理空間情報フォーラムの開催、④空間情報総括監理技術者や地理空間情報専門技術者の資格認定、⑤月刊『測量』編集委員会や女性の技術力向上委員会（ソクジョの会）等の委員会運営、⑥測量機器・成果の検定業務など、直接・間接に人材育成に関わる多くの活動を鋭意行っています。人材育成に関し、既に一定の使命を果たしていると言ってよいと思います。もちろん私の思いも、これまでの活動を大きく変えることはありません。一度、協会の活動方針として「人材育成」を声高に掲げてみて、その観点から関連する活動を見直し、適宜、拡充・強化を図っていければと考えています。具体的なことはまだまだこれからですが、委員会活動をさらに充実させていきたいですし、大学の講義・実習教育にも当協会がより主体的に参画する道を探っていきたいと思っています。

試行錯誤が続くと思いますが、会員の皆様のご意見をお聞きしながら、役職員力を合わせ、また本部・支部一体となって一步一步前進していくつもりです。どうか一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりますが、2020年が皆様にとって笑顔あふれる素晴らしい年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

TRADITION
～伝承～

こうずけさんび
上野三碑

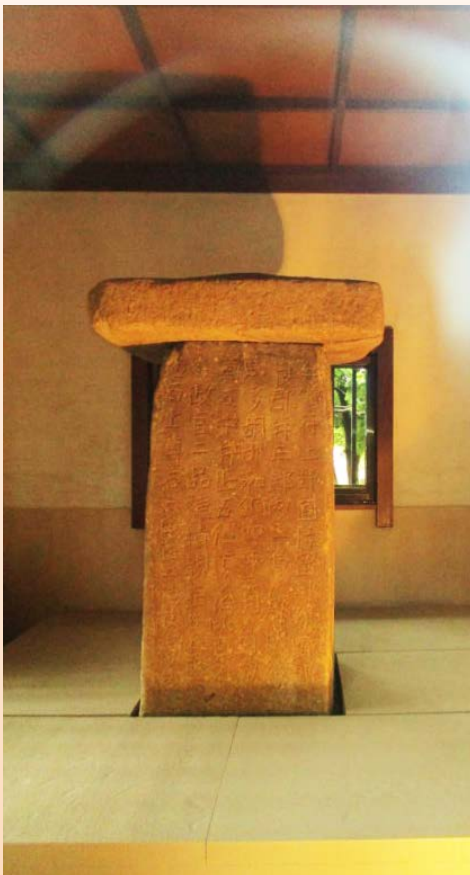
日本測量協会 顧問 星埜 由尚

群馬県高崎市の南部の丘陵に「上野三碑」と呼ばれる古代の石碑がある。

たごひ かないざわひ やまのうえひ

「多胡碑」、「金井沢碑」、「山上碑」という7世紀から8世紀に建立された石碑で、いずれも特別史跡に指定されている。

平成29年には、ユネスコの「世界の記憶」に登録された。



多胡碑（たごひ）

多胡碑は、和銅4年(711)に上野国片岡郡、緑野郡、甘良郡の中から300戸を分け、新たに多胡郡をつくり、羊という人物に支配を任せるとする趣旨のことを記した碑である。羊という人物は渡来人であるとされており、80の楷書の文字は、書道史においてその書体が高く評価されており、日本三古碑の一つに数えられている。砂岩でできた台石、碑身、笠石から成り、碑身と笠石の長さは152.5cmである。

TRADITION

～伝承～

金井沢碑は、神亀3年(726)に三家の子孫が先祖の供養と子孫の繁栄を願って建立したものである。「群馬」の地名の初出とされている。高さ110cmの輝石安山岩に112の文字が刻まれている。



金井沢碑（かないざわひ）

山上碑は天武天皇10年(681)に放光寺の長利という僧が母親黒売刀自のために建てた上野三碑の中で最も古い碑である。高さ120cmの輝石安山岩に53の文字が刻まれている。碑の脇には斜面に横穴を掘り土を盛った古墳があり、碑は、この古墳の墓誌であると考えられている。



山上碑（やまのうえひ）

TRADITION
～伝承～

上野三碑は、それぞれ近い距離でハイキング気分で回ることができる。地味な文化財であるが、日本の古代を物語る貴重な遺跡である。「世界の記憶」に登録されていることもあり、一度見学されることをお勧めしたい。多胡碑には記念館があり、上野三碑に関する資料などがある。



上野三碑ホームページ

<https://www.city.takasaki.gunma.jp/info/sanpi/index.html>



ユネスコ「世界の記憶」ホームページ

<http://www.unesco.org/new/en/stelae-ancient-kozuke>

特集

令和元年風雨災害への対応

三陽技術コンサルタンツ株式会社

代表取締役 吉岡 慧治

自然災害への迅速な対応について

三陽技術コンサルタンツは、専門知識と創意工夫によって業務を行う会社であり、その業務の1つが、「自然災害に対する防災・減災・復旧対策・復旧設計」です。

令和元年は台風や前線による大雨により、日本の非常に広範囲で堤防決壊、河川の氾濫等による大規模な風雨災害が発生しました。

三陽技術コンサルタンツは、調査依頼元の要請を受けて、いち早く災害現場へ駆けつけ、その状況を調査・記録してまいりました。

災害現場写真のいくつかを紹介します。



橋、橋台の左右のブロック積が破壊



崖と基礎部擁壁が水流により流され
斜面が崩落



護岸基礎の洗掘により護岸被災



護岸と根固工の被災



石積擁壁の基礎部が洗掘されて被災

三陽技術コンサルタントは、今後も皆様のお役に立てるよう、社員一同より一層努力してまいります。

URL <http://www.sanyo-geo.co.jp>

得意技術紹介

アジア航測株式会社
ベンチャー共創室
高柳茂暢

釣り人必携アプリ「釣りドコ」のご紹介

釣りドコは、ALBにより作成した極めて詳細な海底地形がスマートフォン、タブレット、PCなど様々なデバイスで閲覧できる無料のPWA※で、2019年10月末にサービスインしました。

(※PWA: Webアプリにネイティブアプリの使用感を実装したもの)

ユーザーは海底地形図を見ることで魚のいる場所を把握できるだけでなく、PWA上で釣果を登録したり、他のユーザーの釣果を閲覧したりすることができます。

「魚がどこにいるか分からない。」
「新規に釣り場を開拓したい。」
「魚のいる場所へピンポイントに投げたい。」
「根掛かりを減らしたい。」



そんな悩みは釣りドコで一発解決!

最新のレーザ測量技術が
新たな釣りの世界を拓きます!

Let's Find your Fishing ground!
釣りドコ

活用イメージ



研究室紹介

茨城大学 工学部 都市システム工学科 国土空間情報研究室 教授 桑原 祐史

国土空間情報研究室では、自然環境の保全と国土管理における空間情報関連技術の応用を社会で実現できるよう、基礎的技術の開発から分析的応用技術までを対象としています。

現在、カメラを用いた河川モニタリング、CO₂の計測及び計測データの応用、UAV撮影画像からの植生把握といった“フィールド”で得られるデータを用いる研究テーマと、衛星(SAR)データ解析による災害域の抽出や、衛星画像・標高データ等を用いた堤防抽出等の、“解析”メインの研究テーマで動いています。

また、物的・人的環境整備が安全管理の第一歩という認識のもと、教員と学生で機器の維持管理、室内の清掃を行っています。

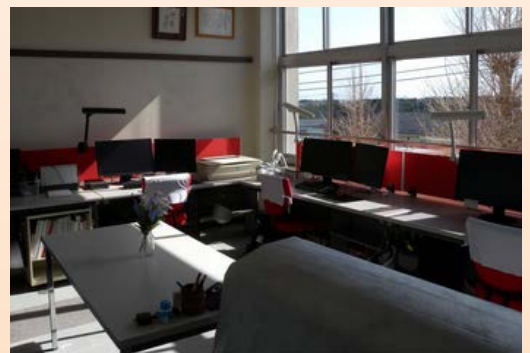


“研究も遊びも本気で取り組む”

先日当学科で行われた研究室対抗野球大会(大会の様子:左)では準優勝という結果を収めました。研究室メンバーでの飲み会の開催など、コミュニケーションを積極的にとしています。

URL(国土空間情報研究室):

<http://landinfo.civil.ibaraki.ac.jp/>



↑ 霞ヶ浦湖畔の空撮画像(左), 国土空間情報研究室 解析室(右)
鳥獣害から農作物を守るためのUAV利用方法を現地で試しました。夜の霞ヶ浦湖畔はとても寒く、体力も重要です。

研究室紹介

木更津工業高等専門学校 環境都市工学科 空間情報工学研究室 教授 島崎 彦人

空間情報工学研究室は、筆者が木更津高専に着任した平成22年4月に誕生しました。木更津高専では、基本的にはひとりの教員でひとつの研究室を構え、年齢的には大学1～4年生に相当する本科の4～5年生と専攻科の1～2年生を研究室に受け入れます。各研究室に配属された本科の4年生は、後期の半年間で「課題研究」に、5年生は1年間の「卒業研究」に取り組みます。専攻科生は2年間で「特別研究」に取り組み、大学評価・学位授与機構の審査を経て、大卒と同じ学士の学位を取得します。

文字通り何も無い部屋からスタートした研究室ですが、研究機関や企業からのご支援と外部資金の獲得によって、いまでは充実した教育研究体制が整いつつあります。また、意欲的で明るい性格の学生にも恵まれ、野外での調査活動(写真1, 2)や測量コンテストに参加したり(写真3)、国内外の学会で研究発表を行う機会も増えつつあります(写真4)。研究室の出身者が、将来、空間情報技術者あるいは研究者となって活躍してくれることを期待しながら、今後も教員としての役割を果たしていきたいと考えています。

Webサイト <https://sites.google.com/site/geoinformatics-lab/>



写真1 北海道での河川調査



写真2 UAVリモートセンシング



写真3 測量コンテスト

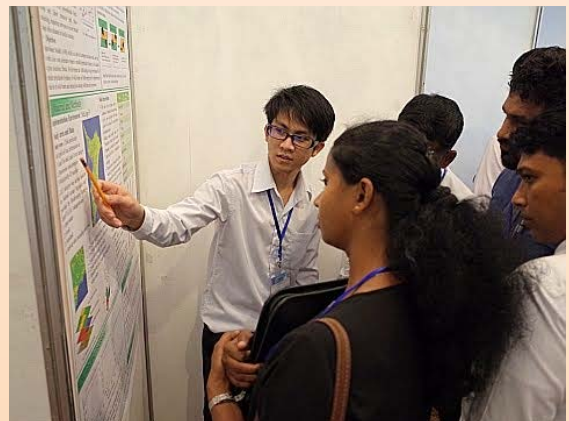


写真4 国際学会での発表

地図の利用手続を緩和します

～申請不要の範囲を広げ、より簡便な利用環境を実現します～

国土地理院は、令和元年12月10日（火）より、地図等の利用手続の運用を改正しました。改正により、利用にかかる申請不要の範囲が広がることから、利用者がより簡便に利用できるようになります。

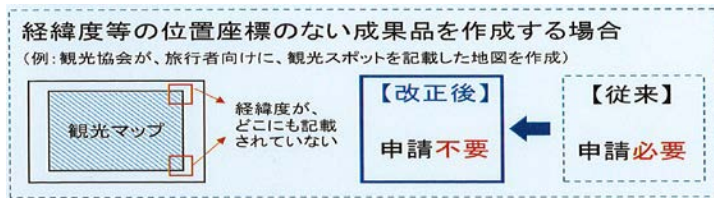
国土地理院が刊行、提供している基本測量成果（地図）を複製して刊行したり、使用して新たな地図を作成する場合は、測量法（第29条・第30条）に基づき国土地理院長への申請が必要になる場合があります、予め、これらの申請が行われていました。

今回の改正は、申請を要する範囲を限定し、申請不要の範囲を広げたものです。これにより、地図の活用促進が期待されます。

申請不要となる範囲の拡大について

1. 経緯度等の位置座標のない成果品の作成は、一部を除いて申請が不要となります

- 従来は、国土地理院の地図を、コピーやスキャンして刊行・ホームページに掲載したり、使用して新たな地図を作成する場合は、位置座標の有無を問わず、申請が必要でした。
- 得られた成果（成果品）に位置座標が表現されていない場合、その成果品については、現実の利用のされ方として、ある地点の位置を一定の精度で把握する等の用途には用いられないことを考慮し、今後は、国土地理院の地図を位置座標のない成果品の作成に利用する場合には一部の場合を除いて申請不要となります。
- 災害対応の基礎になり、正確な位置座標が必要とされる管内図やハザードマップ等は国土の管理に関わる地図情報を作成する場合などは、申請が必要となります。



※「国土の管理に関わる地図情報を作成する場合」とは

- (1) 「国土の管理に関わる地図情報を作成する場合」に該当する具体例
 - ・管内図（例：事務所管内図、事務所事業概要）、
 - ・ハザードマップ（例：洪水ハザードマップ）、その他防災マップ
 - ・その他国土の管理に関わる地図情報（道路、河川、ダム、港湾、鉄道、空港、都市開発、土地地区画整理、上・下水道、農道・農地・圃場整備、不動産、環境保全、資源・エネルギー等）
- (2) 「国土の管理に関わる地図情報を作成する場合」に該当しない具体例
 - ・文化、保健医療、福祉、観光、防犯、交通安全 等（例：観光マップ、防犯マップ、交通安全マップ 等）

2. 書籍・パンフレット等への地図の挿入は、申請が不要となります

- 従来は、刊行物等に少量の地図を挿入して利用する場合、掲載する地図の大きさや分量により、申請が必要な場合があります。
- 今後は、掲載する地図の大きさや分量によらず、地図を挿入する場合は申請不要となります（ただし、地図帳、折り込み地図は除く）



国土地理院ウェブサイト
<https://www.gsi.go.jp/>



地図の利用手続改正に関する情報を掲載中！

【お問い合わせ】

国土地理院 地理空間情報部 情報企画課 審査係
〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-4150（直通）FAX 029-864-8285

[お問い合わせフォーム](#)

「国土地理院が航空重力測量に着手」

国土地理院は、「正確な標高がわかる社会の実現に向けて ～国内初！全国の重力を空から測定します～」と銘打って、航空機による日本全国の重力値の測定に着手することを、2019年7月12日に発表した。7月22日には、調布飛行場において出発式が執り行われた。

既に普及しているGPSや近年整備が進んだ準天頂衛星システムを用いて、衛星測位により標高を決めるには、日本全国の重力データを用いて標高の基準を構築する必要があるが、現在のデータには、山岳部や沿岸地域の空白域の存在や、観測時期が古いなどの課題がある。そこで、全国均一で高品質な重力データを整備するため、今回の事業に着手することになった。

測定に際しては、精密なバネばかりを航空機に搭載して飛行し、バネの伸びからその地点の重力値を得る。日本全国を10km間隔、高度3,000～5,000mで飛行し測定する。2019年度は関東・中部を測定し、2022年度までの4年間で離島を除く全国を測定する。

こうして得られた重力データに既存データを加え、新たな標高の基準となる精密重力ジオイドを構築する。これに衛星測位を組み合わせることで、スマートフォンやドローンなどでも簡単に正確な標高が測れるようになり、測量作業の効率化、公共工事等での生産性の向上、災害時の迅速な復旧・復興への貢献などの効果も期待できる。

出典：https://www.gsi.go.jp/buturisokuchi/airbornegravity_start.html

(記：赤松 幸生)

「国土交通データプラットフォームが始動」

平成30年6月閣議決定の総合イノベーション戦略に基づき、11月に国土交通省社整審・交整審の技術部会がデータ連携基盤の構築について国土交通データプラットフォーム(仮称)構想を提言。平成31年1月国土交通データプラットフォーム検討会を設置、2月有識者会議を設置して国土交通データプラットフォーム整備計画(原案)を策定し、3月29日～4月12日まで意見募集。令和元年5月30日に国土交通データプラットフォーム(仮称)整備計画を策定したと発表した。

機能については国土地理院の3次元地形データをベースに、3次元地図上に点群データ等の構造物の3次元データや地盤の情報を表示する「3次元データ視覚化機能」、国土交通分野の多種多様な産官学のデータをAPI(アプリケーション プログラミング インターフェイス)で連携し、同一インターフェイスで横断的に検索、ダウンロードを可能にする「データハブ機能」、国土交通データプラットフォームのデータを活用してシミュレーションした結果を登録・閲覧可能とする「情報発信機能」の構築を目指す。

令和元年10月31日に国土交通データプラットフォーム構築キックオフイベントを開催して、計画の内容を説明すると共に、国土交通データ協議会へ参加し、活用やデータ提供の意見を行う会員の募集を開始した。会員にはプロトタイプログインIDとパスワードが与えられる。公開データは国交省直轄と静岡県工事成果品(3次元点群データ)、地形データ(基盤地図・航空レーザデータ)、地質データ、施設の諸元・点検データ、その他企業取引、交通人流データ、ゼンリン建物データなどとなっている。会員は連携を希望するデータとその公開方法、データプラットフォームの利活用方策、インターフェイスの構築方法等の意見を提示する。

(記：植田 秀一)

INTRODUCE A BOOK

～本のご紹介～

「伊能図探検」 伝説の古地図を200倍楽しむ

村山 祐司 著

年を追うごとに、社会や身近な生活環境の変化を実感することが多くなった。昔のまま変わらないものに懐かしさを感じ、新しいものに進化を感じる。その感動を求めて旅に出る人も多く、私もその一人だ。

伊能忠敬の没後200年が経過した。本書は、新旧の地図の比較や日記などを題材に、ピンポイントでわかりやすく説明している。その時代を生きてきたわけではないが、リアルに実感でき、読んでいるだけで想像が沸き立つ。

過去の長きにわたり、河川や海岸の浸食、火山噴火などが地形の変化を起こした。また、住みやすい環境づくりのために、埋立やダム建設、干拓、河川改修などが行われ、人工的に地形を変えてきた。最近では、地球温暖化などの影響により、自然災害が頻発している。過去からの変化は、将来を予測するために不可欠な情報でもある。災害復旧、防災・減災に、地図は大きな役割を果たしている。今を知ることは、技術の進化で容易に可能となったが、過去を知る上で伊能図は、確かな資料であることに間違いはない。

そんな大それたことを考えるかどうかはさておき、純粹に古地図を楽しむ。若者から年配者まで、地図を見て昔と今、さらに将来を探求することが好きな方は、穴が開くほど見てしまう。そんな一冊ではないか。



(田中 朗)

河出書房新社編集部 編
A4版 96頁
定価 本体1600円＋税
ISBN 978-4-309-22744-3

<目次>

- Part1.伊能図は面白い
- Part2.伊能図と今の町、
比べてみたら25選
- Part3.伊能図はこんな
研究で使われている

支部報告

第30回測量経営者研修会 開催報告

令和元年8月30日(金)、第30回測量経営者研修会が昨年同様、東京都新宿区の測量年金会館において開催されました。今回の研修会には、57名の受講者が参加しました。

開会にあたり、日本測量協会関東支部 小野邦彦支部長から開催の挨拶として、本研修の目的と講師及びテーマが紹介されました。



第1部の特別講演は、国土地理院 参事官の鎌田高造氏をお招きし『衛星測位時代の測量シーン』と題して、衛星を使ったこれからの測量について、地理院の取組状況を解り易く説明いただき、受講者は真剣な面持ちで聞き入っていました。



支部報告

第2部のパネルディスカッションは『わが社における働き方改革』と題し、始めにコーディネーターを務める青山学院大学教授(元国土地理院長)の村上広史氏から今回のテーマとなる「働き方改革」の解説とディスカッションの論点整理についてお話がありました。



次にパネラーの三陽技術コンサルタンツ(株)吉岡慧治氏、武州測量(株)笠原俊也氏、国土地図(株)藤沼邦雄氏、(株)嶺水の小山忠孝氏から、それぞれ自社が取り組んでいる働き方改革について語っていただきました。



吉岡慧治氏



笠原俊也氏



藤沼邦雄氏



小山忠孝氏

支部報告



続いて、村上氏の進行による4名のパネラーとの意見交換が行われ、会場からの質問も受けるなど充実したディスカッションとなりました。



会場は盛況の中、予定通り今回の研修会を終了いたしました。

関東支部 社会部会
部会長 小 安 隆 夫

支部報告

「21世紀の伊能忠敬になってみる ～地図づくりのプロたちから学ぶ3次元測量～」 芝浦工業大学公開講座 参加報告

(公社)日本測量協会関東支部では、事業活動の一環として平成28年度より、測量のイメージアップのための事業の一つとして、「測量技術に関する教育活動への協力」を掲げており昨年度に続き今年度は、芝浦工業大学の測量実習講座に共催団体として協力しました。

芝浦工業大学では、昨年までさいたま市が主催する「子ども大学 SAITAMA」の講座の一つとして測量講座を行っていましたが、今回は大学独自の子供向け公開講座として実施されることとなりました。

芝浦工大では、豊洲キャンパス、芝浦キャンパス、大宮キャンパスそれぞれにて、小学生から大人に至る幅広い年齢層を対象に、シニア向け講座、ボランティア講座、ロボットセミナー、子供向け科学講座などを数多く行っています。

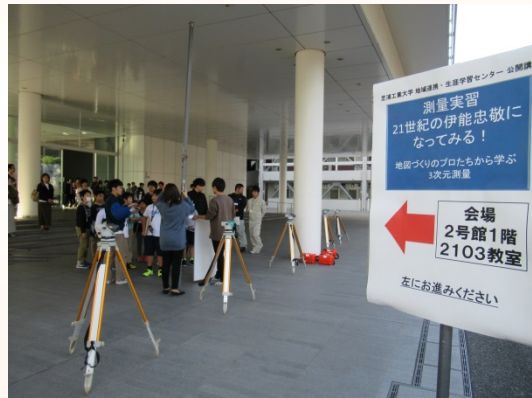
今回の測量講座も昨年同様、大学近隣の小学校の4年生、5年生を中心に募集したところ、28名の小学生と同伴の保護者達の参加となりました。



教室での子ども達と親への座学

支部報告

この測量実習の講座は、11月2日(土)に大宮キャンパスを会場として、午後1時半より講座が開始され、中川教授から測量とはどのようなものか、伊能忠敬時代の測量方法、現代の測量技術についてなどを説明され、その後に距離測量、水準測量およびUAV測量の体験実習が班ごとに精度を競う形式で行われました。



標尺を立てて水準測量

この体験実習では、(公社)日本測量協会測量技術センターの空間情報技術部、機器検定部、測地検査部から4名の若手職員と、(一社)埼玉県測量設計業協会2名の有志、芝浦工業大学の学生10名、研究室インターンシップで来日していた准教授も講師となり、子どもたちに熱心に、そして楽しく測量の方法を指導しました。



UAVで行う測量について説明



距離を測量

支部報告

実習後、参加者全員の記念写真撮影を行って終了し、測量実習終了後には、中川教授から「何のために測量したり、地図を作るのか」についての子供たちからの意見を聞きながら測量の楽しさと必要性が説明されました。その後、測量実習結果の優秀班の表彰と最優秀生徒の表彰が行われ、協会から奥田さんが女性技術者について、関東支部木下事務局長からG空間EXPO等について一言述べ、参加賞を贈り、公開講座は終了しました。



参加者と講師全員で
記念撮影

アンケートには、最初はあまり興味がなかったが、受講後は楽しかったというものが多く、意見では「いままで知らなかった測量のやりかたをわかりやすく説明してもらった」「距離などを測る方法をおしえてもらえてすごく楽しかったです」「ドローンの操縦が楽しかった」などの意見がありました。また保護者からは「普段、見たこともある器械でしたが、どのようなことを行っているのか理解できた。子どもも楽しそうにしていました。」「保護者もついでにレベルやトータルステーションと一緒に見させて頂き、大変興味深かったです。」等多くの感想をいただきました。

この日は測量に対して、大人も子どもにも興味を大変持って頂くことになりました。ここから10年後に未来の測量士が出てくることを期待いたしましょう。

関東支部では、今後もこのような測量教育活動への協力を積極的に行っていきます。

関東支部 教育部会 部会長 酒井 静

支部報告

第20回いばらき児童生徒地図作品展 協力報告

「いばらき児童生徒地図作品展」は、茨城県の小・中学校が身のまわりの環境や地域の姿を自ら観察・調査し、それらを地図として表現することにより、環境や地図さらには地域に対する関心を深めることを目的としています。

(公社)日本測量協会関東支部は、いばらき児童生徒地図研究会員として作品展への協力をしております。

令和元年は、応募期間9月2日から9月27日の間に、小学生47作品、中学生195作品の併せて242作品の応募がありました。

令和元年10月19日に応募作品の審査会があり、11月26日から12月8日茨城大学にて優秀作品等が展示され、12月1日には表彰式が執り行われました。



審査会



茨城大学での展示

表彰式

支部報告

支部長の交替について



支部長退任の挨拶をされる小野氏と清水会長

平成25年5月より支部長を勤められました 小野 邦彦 様は、令和元年8月31日をもって支部長の職を辞されました。

8月30日、辞任の挨拶をされ、日本測量協会清水会長より、感謝状と記念品が贈られました。

その後、支部役員から支部長に推薦され会長より支部長に委嘱されました 吉岡 慧治 氏から、就任の挨拶が行われました。

吉岡慧治氏略歴

昭和61年～
三陽技術コンサルタンツ(株)代表取締役
平成22年～24年
(一社)群馬県測量設計業協会会長
平成23年～
(公社)日本測量協会理事
平成29年
旭日双光章授章



支部長就任の挨拶をされる吉岡氏



編集後記



新年明けましておめでとうございます

関東支部会員の皆様におかれましては、よき正月をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、e-支部報も本新春号で早13号目となりました。これも皆様の日々のご支援のおかげと存じます。

今回の特集は、昨年、広範囲に甚大な被害をもたらした風雨災害への取り組みについてご紹介いただきました。多くの支部会員や関係者の方々がご苦労されたものと推測します。支部報告には、支部長交代について掲載させていただきました。小野前支部長ご苦労様でした。吉岡新支部長ご指導よろしくお願い致します。

今後も会員の皆様にとって有用な情報を提供してまいりますので、本報を活用いただければ幸いです。併せて、是非、会員の方々からの投書をお待ちしております。

それでは、皆様にとりまして、この新しい年がより良き年でありますよう心から祈念いたします。

表紙の写真

初春の六義園・藤代峠付近からの展望

六義園は、東京都文京区駒込に位置し、季節により桜、ツツジ、紅葉が楽しめる都内を代表する日本庭園です。

徳川5代将軍徳川綱吉に仕えた柳沢吉保の下屋敷として1702年に築造されました。

写真提供・文 飯村 友三郎 氏

原稿募集

新技術、会社・得意技術紹介の原稿を募集しております。

(A4 1ページ、文字は10行程度)

原稿作成をお願いできる大学・会社の方は総務・広報部会までご連絡下さい。なお掲載につきましては、総務・広報部会にて審査させていただきますのでご了承ください。

総務・広報部会 連絡先

〒113-0001
東京都文京区白山1-33-18
白山N Tビル3F

TEL 03-5684-3499

FAX 03-5684-3519

E-mail: kantou@jsurvey.jp